

大関増業 下野国黒羽藩主。藩政マニュアル「創垂可継」以降、多くの書物を編集・著作した学者大名。

おおぜきますなり

・ ・ ・ ・ ・ 1781 = 江戸の伊予大洲藩邸で、藩主加藤泰衛の末子八男に生まれる。

田沼意次失脚1786 = 5歳 :

代々学問を好む家柄に育ち、実家の家学であった神道を学んだのち賀茂規清の烏伝神道を修め、兵法・弓術にも練達、

異学の禁・ ・ 1790 = **9歳** :

松平定信引退1793 = 12歳 :

わが 正月・ 1794 = 13歳 : 大洲に移る。

蝦夷地直轄始1799 = **18歳** :

のちの藩主が完成させる「大洲和歌集」の編集を始め、

いざ乃報復・ 1806 = 25歳 : 藩政の相談にも預かるようになる。

間宮海峡発見1808 = **27歳** :

・ ・ ・ ・ ・ 1810 = 29歳 : **この年、長らく財政難が続いてきた下野国黒羽藩で、病弱の藩主大関増陽が窮状打開のため隠居を決意、**
ゴロウ 拿捕 1811 = 30歳 : ***その家老衆から見出されて増陽の養嗣子となり、家督を継いで第11代藩主になると、直ちに江戸藩邸から家老以下農民までに改革に向けての親書を現地に送り、**

高田屋拿捕・ 1812 = 31歳 :

黒住教・ ・ ・ 1814 = 33歳 :

従五位下、
さらに、財政建て直しに向けた親書を送り、人材の登用により、文武を奨励して藩校作新館を創設し、練武館をも開いて文武振興を計る。また、新地開拓・製茶・製陶・養蚕・織物など殖産興業にも努め、

杉田玄白没・ 1817 = **36歳** : 藩政の方針を定めるため「創垂可継」を編み、

水野忠成老中1818 = 37歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1820 = 39歳 : **勤農のため「機織彙編」を著す一方、長年研究してきた「校本日本書紀」を刊行し、**

藤栗毛終・ ・ 1822 = 41歳 :

シノ 村来日・ 1823 = 42歳 :

***9年かけた武器製作についての研究実験書「正文枢要」353巻が成り、「日本書紀文字錯乱備考」出版も、藩政改革は藩の重役達の反感を買って失敗し、隠居を余儀なくされる。**

その後は、江戸箕輪の別邸に閑居し、国学・神道・茶道・造兵学・科学・医学の研究に打ち込み、大きな成果をあげる。

・ ・ ・ ・ ・ 1826 = **45歳** : **「校本日本書紀」を仁孝天皇に献上、**

宮籙流行・ ・ 1830 = 49歳 : **「機織彙編」を刊行して、神宮文庫に献納。**

また自ら甲冑を制作し、大関メッキと呼ぶ鍍金の技術を開発したり、

滑稽+人情本 1835 = **54歳** :

大塩平八郎乱1837 = 56歳 : **茶の湯の水質測定を試みて「喫茶新語」刊行するなど、常に科学的研究の姿勢を示す。**

蛮社の獄・ ・ 1839 = 58歳 : **水戸藩主徳川斉昭に「兵器製作方秘書」を贈って、感謝される。**

勸進帳初演・ 1840 = 59歳 : 「神道明証弁」刊、

天保改革終・ 1844 = **63歳** :

阿部正弘首座1845 = 64歳 :

***生涯にわたって、多くの書物を編集・著作し、没した。**

その他「創垂可継編」「日本紀見例」「紅紫茜染方并金鍍秘伝」「名水品彙」「柳営勤仕会」など。

「人づくり風土記」(栃木)、日本の古典名著、